

平成 29 年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	豊立会	代表者	鈴木 俊孝	法人・事業所の特徴	日々笑顔にあふれたアットホームな雰囲気施設の施設です。通いであっても自宅へ送ったら支援が終わりではなく、24時間ご利用者の状況を把握して、必要な介護が出来るように支援しております。また、宿泊や訪問の支援も顔なじみの職員が行っており、関係も深まり安心へと繋がっています。またご家族様と情報を共有することで、ご利用者様の最適な支援へと繋げ、季節に合わせたイベントや外出行事も多く楽しみのある施設となっています。ご利用者様からの意見を取り入れ、活動に活かすことで、一人ひとりに合わせた日常生活動作の向上が図れるように支援をしております。朝の訪問支援や夕食を食べてからの送迎、急な宿泊の対応など可能な限り柔軟に対応して、独居の方の支援や、ご家族様の介護負担の軽減を図れるように努めております。
事業所名	まんざきの家玲光苑	管理者	坂本由紀子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	8人	人	2人	1人	1人	人	6人	人	18人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見（運営推進会議メンバーより）	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	各項目の改善内容について、必要な勉強会の出席を積極的に進めると共に、会議等職員全体で検討を重ね、サービス向上に向けて、さらに取り組んでいく。	自己評価に関しては、個人の経験値等によって評価のばらつきが見られる項目もあった。しかし、事業所評価としては、共通の認識を持ち取り組むことができた。また、内部研修の他、外部研修に多く参加でき、資格取得に取り組む職員もおり、スキルアップと共に、サービスの質の向上に努めた。		事業所評価、『次回までの改善計画』に関して、具体的にどのように取り組んでいったらよいか、また自己評価の低い項目について再度、共通の理解と自身の向上に繋がられるよう『できていない』とあげた項目について、職員間で話し合いを持ち、意見を出し合う。
B. 事業所のしつらえ・環境	施設の見学会や開放日を設け、地域の方に訪問して頂けるような環境づくりに努める。地域資源の把握と活用を視野にいれながら、地域の方や近隣学校との交流の場を増やしていく。	見学会や開放日の開催ができなかった。しかし、近隣の高校や小学校、公民館やボランティアの方々など地域の方と、交流を持ち支援に取り入れることができた。	・苑庭の清掃等、声を掛けて頂ければお手伝いします。	平成 29 年度、開催の出来なかった、見学会や開放日の開催を行っていくことで、地域の人が足を運びやすく、風通しのよい施設となるよう環境を整えていく。
C. 事業所と地域のかかわり	今後も、他方面への情報発信を行う。地域イベント等への参加は積極的にできており、継続し行っていく。地域貢献を視野に入れながら、専門性を活かした活動やイベント等を行い、地域との繋がりを深めていく。	定期的な広報誌での活動報告の他、押畑玲光苑協働での認知症サポーター養成講座の開催や地域のイベントで健康体操を行った。また、地域の方協力のもと消防訓練を実施した。	・定期的に戻覧板に入ってくる施設の新聞がカラーで見やすくてとても良い。 ・相談等があった際、訪ねて行って良い場所なのか、また相談してもよい場所なのか迷ってしまう。	今後も様々な機会を利用し、まんざきの家玲光苑の情報発信を行っていく。また、地域との交流は継続し、より繋がりを深めていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	松崎地区以外の地域にも、活動報告の他、支援内容や活動について知って頂く努力を行う。地域のニーズにあった勉強会やイベントを継続し実施していく。	地域の方からのイベント等のお誘いなども増え、ご利用者様、職員ともに積極的に参加ができています。また、松崎地区の他、大竹地区への（回覧板）や八生地区お一人暮らしの方々に活動内容の報告が継続し行えている。	・民生委員をしているが、相談件数は少ない。 ・地域包括支援センターには相談が増えている。しかし、松崎地区は年配の方が多く地域の繋がりが強くご近所同士で助け合っているため、サービスを受けていない方が多い。「地域でやらなくてはならない」と思わず、「ちょっと行政を使ってみようかな」程度の軽い気持ちで相談に来てほしい。	活動報告の他、『ちょっとしたお役立ち情報』などを掲載し、情報発信を行っていくと共に、地域に開かれた事業所として、地域との顔なじみの関係づくりのための取り組みとしてイベントや勉強会の実施を積極的に行っていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議で出たご意見を、支援や活動、施設運営に活かしていく。また地域との協働した取り組みを計画し、風通しの良い施設づくりに努めていく。	運営推進会議を通して、地域の方々やご利用者様、ご家族様等からのご意見を頂くことができています。また、ミニ勉強会の実施や新サービスの説明会など、他事業所との協力した取り組みもできた。	・送迎スタッフは、ご家族様からの悩みを聞くことが多いと思う。聞いた悩みを会議で発表することで、皆さんからの意見も頂けると思う。	運営推進会議からでたご意見の他、普段の支援の中でのご利用者様やご家族様また事業所の悩みについて、個人情報に注意しながら会議を通してご意見をいただき、改善に努めていく。
F. 事業所の防災・災害対策	地域の中の事業所として、地域の防災の1拠点としての役割を担う。運営推進会議のプログラムの1つとして、委員参加のもと、より多くの地域の方の参加を呼びかけ、施設の消防訓練を実施する。	29年度第1回の運営推進会議にて、地域にお住いの方や、近隣学校の先生、消防署の方協力のもと、防災訓練の実施ができた。以前ご指摘をいただき、改善を行った箇所についても定期的に確認しながら継続ができています。（避難経路の確保、夜間帯誘導灯等）	委員の方からの情報提供 ・松崎地区の公式の避難場所は八生小学校と八生公民館になる。 ・西陵高校、坂田が池はドクターヘリの着陸施設に指定されている。	今後も地域の中の事業所として、地域の防災の1拠点としての役割を担う。運営推進会議のプログラムの1つとして、委員参加のもと施設の消防訓練を実施する。

